

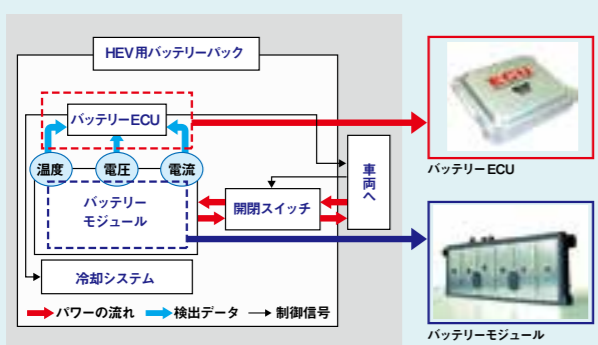
プライムアースEVエナジーが開発する  
ハイブリッド自動車用バッテリーシステム



バッテリーシステムのイメージ

バッテリーモジュール ECU 冷却システム など構成される。

バッテリーパックの内部構造



このバッテリーパックに内蔵されている**バッテリーモジュール**（青枠部分）に加え、バッテリーを制御する**バッテリーECU**（赤枠部分）も設計・開発している。

バッテリーパックとは

複数のバッテリーモジュールとECUを内蔵し、バッテリーシステムとして車に搭載できる状態の製品を指す。自動車メーカーの要望（電池重量・容量）に応じて、様々な素材や形状で作られ、バッテリー本体を衝撃や振動から守る。バッテリーの温度が高くなりすぎないように冷却システムも備えている。

バッテリーモジュールとは

モーターを駆動するために電気エネルギーの放電・充電を行う。正極板と負極板を交互に組み合わせて、電解液を注入して作られる「バッテリーセル」と呼ぶ単位バッテリーを複数つないで構成される。

バッテリーECUとは

バッテリーパックの電子制御ユニット（Electronic Control Unit）。バッテリーの状態を把握するために、バッテリーモジュールの電圧・電流・温度等を計測し、バッテリーへの入出力を監視。バッテリーの冷却マネジメントや高電圧安全回路なども監視し、バッテリーパックを安全かつ効率的に使えるようにする機能を持つ。

- 1 出来高向上を目指し、作業をしやすくすることが、石森さんに課せられたミッションだ
- 2 東北を第三の生産拠点と位置づけるトヨタグループ企業と密に連携を取っている宮城工場。主にトヨタ自動車のアクアやカローラに搭載される電池パックを生産している
- 3 プライムアースEVエナジーが独自に開発するバッテリーシステムは、ハイブリッド自動車の主力製品。それだけに日常のメンテナンスは重要だ
- 4 製造ラインが滞ることなく24時間稼働できるように、石森さんは目を光らせている



企業情報

プライムアースEVエナジー 株式会社

所在地 黒川郡大和町流通平1番地  
TEL 022-353-0111  
FAX 022-344-1511  
http://www.peve.jp



代表取締役社長 鈴木 茂樹  
設立 1996年12月  
従業員数 3,300名（2014年4月時点の全社合計）  
事業内容 PEV<sup>※</sup>・HEV<sup>※</sup>用ニッケル水素蓄電池、リチウムイオン電池、BMSの開発・製造・販売  
企業理念 [社会に貢献] EV・HV用電池事業を通じて環境・エネルギー領域で社会に貢献します。  
[世界に提供] 高性能・高信頼のEV・HV用電源システムのソリューションを広く世界に提供します。  
[市場を創造] 事業の展開を通してEV・HV用電池市場の創造と拡大をめざします。

※PEV…プラグインハイブリッド車（plug-in hybrid car）、コンセントから差込プラグを用いて直接バッテリーに充電できる  
※HEV…hybrid electric vehicle の略で、内燃機関と電動機を動力源として備えたハイブリッド車を表す



2



3

は、クルマの長い歴史の上でも画期的といえる。燃費やCO<sub>2</sub>の排出をガソリン車の約2分の1に抑え、人々の環境に対する意識を高める効果もあった。電気自動車（EV）、ハイブリッド

車（HV）、プラグインハイブリッド車（PHV）、燃料電池車（FCV）など、環境負荷の低い次世代自動車の開発はその後も国内外に広まり、これらの自動車に使われる電池の需要も急速に高まってきた。増

仕事 図鑑 CASE 01

新たなモノづくりに挑み、クルマ社会の未来を拓く

メンテナンス

石森 勇紀さん（21歳）

プライムアースEVエナジー 株式会社（黒川郡大和町）

現在、世界中で走っている自動車は10億台を越えている。この台数は30年前と比べて3倍以上。アジアをはじめとする新興国での普及が加速し、自動車のある便利で快適な暮らしは世界中に広がっている。その一方、自動車の普及に伴い、排気ガスによる大気汚染やCO<sub>2</sub>排出による地球温暖化、さらに石油資源の枯渇も叫ばれるようになり、多くの課題が表面化してきたこともまた事実だ。

1997年、これらの課題にひとつの答えが出た。世界初の量産型ハイブリッド車「プリウス」の登場だ。従来エンジンだけだった動力源にモーターが加わったこと

クルマ社会が直面する様々な課題に  
電気で走る自動車が出した答え



1

ハイブリッド車用電池で業界No.1  
環境・エネルギーの領域でも社会に貢献

大するニーズを満たすために1996年、トヨタとパナソニックの共同出資により設立されたのがプライムアースEVエナジーだ。

### 累計700万台を越える実績は豊富なノウハウと優れた技術の賜物

車載用電池の分野では、日本の企業が世界に先駆けて量産化に成功し、世界のマーケットを牽引している。その中心を担うプライムアースEVエナジーは、設立から18年足らずで累計生産台数700万台(車両台数ベース)を突破。名実共にこの業界で世界のトップシェアを誇っている。

ニッケル水素電池の性能向上に加え、リチウムイオン電池は量産体制が着々と進められている。電池のみならずECU(電子制御ユニット)をはじめとするBMS(バッテリー管理システム。Battery Management Systemの略)の開発や、電池とBMSをクルマに搭載するための電池パックの設計も行われている。電池材料の開発からバッテリーパックの設計・評価・生産まで、車載用電源システムをトータルに提供できる点も、プライムアースEVエナジーの大きな強みだ。

宮城工場は静岡市湖西市の本社・大森工場、境宿工場に続く第三の拠点として2010年1月、黒川郡の大和流通・工

業団地で操業を開始。翌年に発生した東日本大震災も乗り越え、現在の従業員数は約600人に上る。そのうち約9割が地元採用。製造部設備保全課に務める石森勇紀さんも地元出身の一人だ。

### 現場作業を行いやすいように改善し稼働ロスを少なくすることが使命

宮城工場内には現在、製造部設備保全課に72人のスタッフが在籍。24時間稼働する生産ラインが滞りなく動くためには、定期的なメンテナンスが必要不可欠。設備保全課の面々は「稼働ロスをいかに少なくするか」を胸に日々目を光らせ、きめ細かく保全業務に励んでいる。幼い頃からモノづくりが好きだった石森さんは、プライムアースEVエナジーが世界に誇る最高品質の製品づくりを支え、メンテナンスという仕事に誇りを持っている。

入社3年目とはいえ、石森さんに与えられる仕事は甘くない。「出来高向上を目指し、作業のやりにくさを改善する」のが石森さんに課せられたミッションだ。「現場の作業者が体をひねったり、背伸びしながら作業していると、効率は悪くなる。もっと楽な姿勢で作業できるように改善することにより自ずと生産性も上がります。その結果、作業者の安全性も高められますよ」と石森さん。設備保全課の仕事は、働く人のことを思いやる気持ちがあれば務まらない。



## 新たなモノづくりに挑み、クルマ社会の未来を拓く

メンテナンス 石森 勇紀さん (21歳)  
プライムアースEVエナジー 株式会社(黒川郡大和町)

### ここがACEポイント!

プライムアースEVエナジーでは、社員の資格取得を全面的にサポートしている。石森さんも入社後に機械保全(機械系保全作業)2級を取得。現在は参加する機会も与えられ、石森さんは積極的に受講している。明確な目標を持ち、自ら考え行動する人材を歓迎する職場環境は、無限の可能性を引き出す原動力になっている。



「ありがたい」のひと言を励みに次世代のリーダーを目指してほしい



製造部設備保全課 課長 志水 幸広さん

我が社は若い人がとても多い会社です。宮城工場は社員の大半が地元採用ですし、お互いコミュニケーションが取りやすい環境が整えられていますよ。若さや経験不足を理由に意見が通らないことはありません。自らやりたいことを提案すれば、実現する可能性が高いのが我が社の特徴でしょうね。私達の使命は、必要なモノを必要な時にお客様に提供すること。プレッシャーは大きくても、それだけに現場から「ありがとう」と喜んでもらえるのが何よりの励みになります。石森はまだまだ未熟な面もありますが、明るく前向きな性格を存分に活かして、次世代を担うリーダーになってほしいと期待しています。

### 身に着けた技能を活かして信頼される保全マンになるのが夢

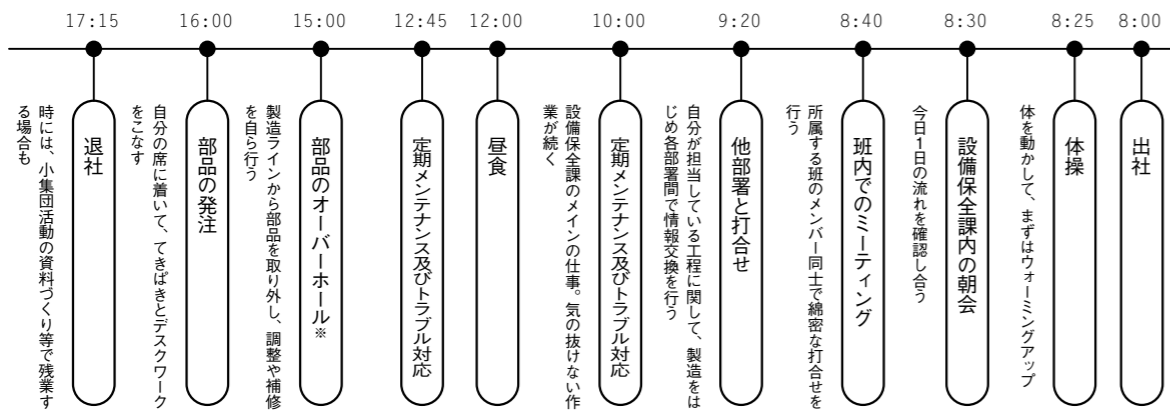
石森さんが所属する課内のグループ・メンバー7人に直属の上司を交えて、小集団活動も精力的に行われている。「小集団活動では、問題の設定から解決策の構築に苦勞しますが、おかげで問題を解決するための手法が学べます」と石森さんが述べるように、チームが一丸となって問題解決に取り組めるのは、プライムアースEVエナジーの自由かつ達な社風に負うところも大きいようだ。

年間30万台の生産能力を誇る宮城工場では、2015年春に新工場の稼働もスタートする。従来よりも生産能力が増強される業界トップ・メーカーにあつて、熱く燃え



他部署との打合せでトラブルなどの情報を交換

## メンテナンス 石森 勇紀さんの ONE DAY



る石森さん。現場から頼りにされる「保全マン」を目指して、そのスキルは着々と進化し続けている。



必要な部品は自ら発注作業も行う



設備の停止時間をいかに短縮できるかが腕の見せどころ



ヘルメットと防塵マスクを着用し、安全第一で設備の保全に勤しむ

※オーバーホール(Overhaul) …機械製品を部品単位まで分解して清掃・再組み立てを行い、新品時の性能状態に戻す作業



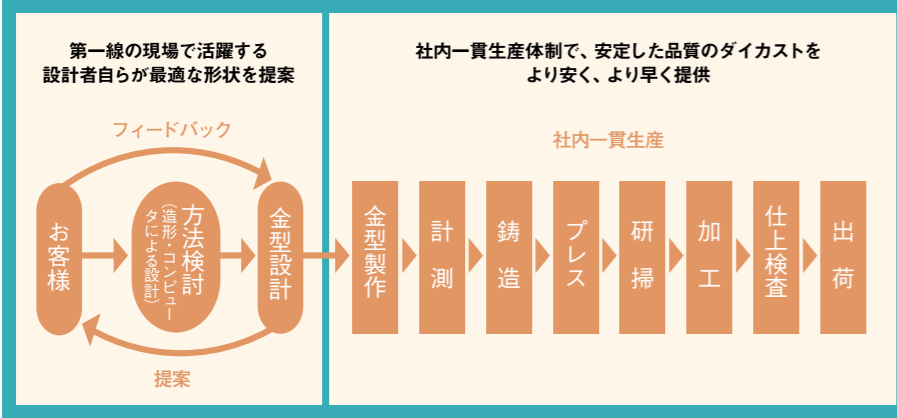
### 未来のACEへ先輩からのアドバイス

就職活動をする上で、取れる資格はほとんど取っていった方が良いでしょう。また、企業説明会や工場見学の際は、実際に製造している様子だけでなく、会社の雰囲気も自分の目で確かめ、体感することが大切ですよ。

我が社は若い人が多く「若い人が活躍できる」会社だと思います。社員が一生懸命働いている姿からは、そんなところまで感じ取ってもらえるはずですよ。

我が社に入社すると、様々な経験を重ねていくことになります。自分がこの会社で何をしたいか、しっかり自分像を見極めて挑戦して欲しいものです。失敗しても諦めずにトライすれば、必ず活路は開けますよ。

より良い製品を目指し、たどり着いた岩機ダイカスト工業のダイカスト製造の流れ



ダイカストとは？

特殊鋼で精度の高い金型を作り、その金型にアルミニウム、亜鉛、マグネシウムなどの金属を注入し、迅速に凝固させ取り出す鋳造方法。ダイカスト製品は寸法精度が高く、強度に優れ、外観が美しく機械加工も少なく済むという優れた特長から自動車関連部品などに多く使用されている。

仕事  
図鑑

CASE  
02



ダイカストの理想を追求し  
精度の高い部品を提供

金型製作

佐藤 大輔さん (31歳)  
岩機ダイカスト工業 株式会社 (山元町)

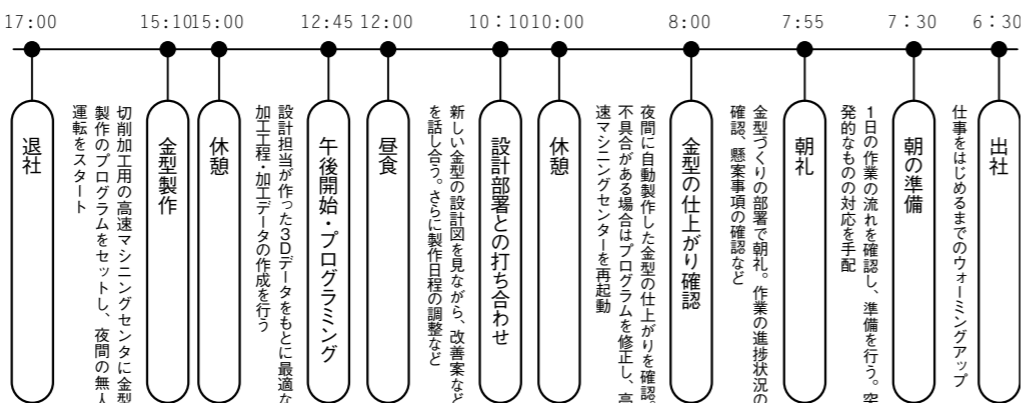
ものづくりの初期の段階に興味  
製品の母体になる金型づくりを担当

工業高校で製図作業の面白さを体験した佐藤大輔さん。「自ずとものづくりの初期の段階に関わりたいと思うようになり、いろいろな調べて製品づくりの基盤になるダイカストや金型づくりに興味を持ちました」と岩機ダイカスト工業に入社した動機を語る。

自動車部品などに欠かせないダイカスト製品において東北最大級の生産量を誇る岩機ダイカスト工業は、緑の下の力持ちとして

「納品までの期間の短縮にもつながること」が挙げられる。顧客との打ち合わせ段階で品質・コスト面から提案し、ニーズに即応

金型製作 佐藤 大輔さんの ONE DAY



自動車産業界を支えているという  
自負を胸に金型づくり

「私が担当するのは金型づくりです。金型は優秀な製品をつくるための母体です」とダイカストにおける金型づくりの重要性を語る佐藤さん。設計担当が3次元CADシステムで作成した製品の3Dデータをもとに、佐藤さんの部署で切削加工用高速マシニングセンタを動かすプログラムを作成する。このプログラムに沿って高速マシニングセンタが夜間も無人運転し、金型を短期間でつくり上げる。

「金型の耐久度は大丈夫か、アルミを流したときに均一に流れるのか、最終的にこ

の金型で良品を量産してくれるのかなど、様々な面から検討しながら試行錯誤を重ね、不備を改善していきます」と語るように、試作をくり返すことにより精度を高め、製品を量産できる金型を作りあげていく。

各部署との連携を深め  
製品づくりのための一貫体制を構築

「我が社の特徴は、金型の製作から鋳造、機械による加工まで一貫した体制でものづくりをしていることです。効率もあがりま

「完成までに設計担当や鋳造担当と何度も打ち合わせをします。品質を確保する上でも、密なコミュニケーションが大切ですね」と部署を越えた連携の重要性を強調する。一貫体制の強化により納入する製品の品質保証(QA)を目指している。

「まだまだ仕上がりに納得できない日々の繰り返しです。製造業は技術の進歩が速いので、常に新しい技術を身につけていきたいと思っています」と語る佐藤さん。宮城の自動車産業界の根幹を支えているという自負を胸に、今日も金型づくりに励んでい



切削加工用の高速マシニングセンタに金型製作のプログラムをセット。思い描いた通りの金型を作り上げるために細心の注意を払いながら作業

設計担当と一緒に新しい金型の図面をもとにした打ち合わせ。金型の耐久度、金属注入の流れなど、細かいところをチェックしながら最善の方法を検討



未来のACEへ  
先輩からの  
アドバイス

最近、若手社員の指導をする機会が多くなって思うことがあります。皆、工業高校など専門の学校を出ているので、当然分かっていると思ってしまうような基礎的なことが、聞いてみると実際には分かっていることが多いということなんです。

基礎をしっかり身につけることが大切です。学生時代から基本的なことに興味を持って身につけてほしいと思います。

しかし、実際には現場の実務の中で覚えなくてはいけないことが多いです。大切なことは、ものづくりに興味を持つこと、新しいことに貪欲になれるかどうかだと思います。

私自身なかなかできないのですが、「ずっずっしく質問する人」は伸びるということを感じています。学生の頃から「なぜ、こうなんだろう?」と疑問に思ったことをどんどん先生に質問できるような人になって欲しいですね。

- ものづくりの初期工程に関わりたかったという佐藤さん。自動車部品づくりの根幹となる金型づくりを担っているという自負がある
- 金型を削る高速マシニングセンタの動きを制御するプログラムづくり。真剣なまなざしで画面を見つめる
- 金型づくりはダイカストの命。試行錯誤を重ね、量産に耐える金型を製作する。後輩の指導に力が入る佐藤さん



岩機ダイカスト工業で製作している自動車部品の一部



企業情報

岩機ダイカスト工業 株式会社

所在地 / 亘理郡山元町鷺足字山崎 51-2  
TEL 0223-37-3322  
FAX 0223-37-3720  
http://iwakidc.co.jp/

代表取締役社長 / 鎌田 充志  
資本金 / 2億円  
設立 / 1969年9月  
従業員数 / 293名  
事業内容 / ダイカスト及び軽金属類の製造販売  
企業理念 / 信頼にこたえる技術と人間性の向上につとめること  
努力は信頼と豊かさの確立に直結すること  
事業を通じて社会全般に貢献すること  
反省と和を重んじ常に新しさを創造すること  
時代の変化に対応し生々発展への道を歩み続けること



精密なプレス加工によって  
自動車部品を製造する技術者集団

株式会社ウチダが製造する部品は、自動車のエンジン周りの各種部品。主要パーツに組み込まれると姿は見えなくなるが、自動車の機能部品の一部として欠かせないものばかりで、非常に精密な作り方が要求される。

ウチダは、これらの部品を主としてプレス加工で製作する。プレス加工とは、部品の素材（たとえばアルミニウムなど）を対になった金型（金属製の型）に挟んで、プレス機で圧力をかけて成形する作り方。従

来は成形した後一部を削ったり、孔を開けたりすることも多かった。ウチダでは複雑な部品の形でも一度に一体的に成形できる高度な技術を確立している。

部品をプレス加工で作るためには、まず金型を設計し、製造する。構想段階の金型

を使用してプレス加工したとき、要望する形状や厚さに部品が加工できるか。コンピュータで詳細なデータを分析して、精密に設計した上で金型を製作する。ウチダの技術力は、コンピュータシミュレーションによる設計段階から発揮される。

を設計した上で金型を製作する。ウチダの技術力は、コンピュータシミュレーションによる設計段階から発揮される。

仕事 03 CASE  
図鑑

自動車の重要部品を支える  
高精度のプレス加工

機械設備の制御・設計・製作  
鎌田 拓臣さん (30歳)  
株式会社 ウチダ 仙台工場 (岩沼市)

精密な設計から、精密な金型を

プレス加工で製作される部品の精度は、金型の精度に左右される。ウチダでは、この金型を物理学の解析法を駆使してコンピュータ・シミュレーション設計している。実物試作をせずに、高い精度を求められる部品の設計を実現できるシミュレーション技術は、ウチダの大きな強みとなっている。

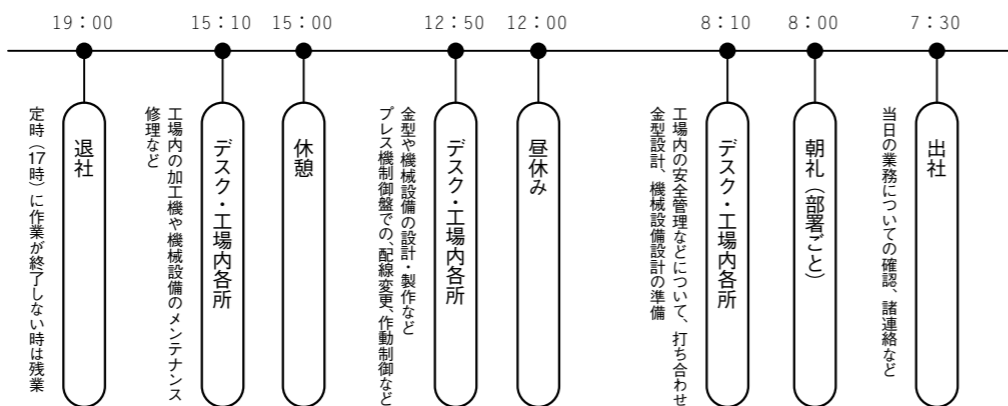
プレス機の作動制御など  
機械をコントロールする面白さ

子どものときから自動車や機械が好きだった鎌田さんは、工業高校から工業大学の電子工学科に進学し、卒業してウチダに



4

機械設備の制御・設計・製作 鎌田 拓臣さんの ONE DAY



就職した。経営陣、社員が丸となって技術開発に力を入れている技術者集団ウチダの仲間になって9年目。鎌田さんは、プレス機の作動制御、製作システムの運用管理、金型の3D設計やコンピュータ・シミュレーション、また付属設備の設計製作などを担当している。

プレス機の作動制御では、「作動プログラムや配線を作る部品に合わせて作り換えないといけない。配線を1本もまちがえられないので、たいへん」という。生産工程として成り立たせるためにはプレス機から出てくる部品を自動的に運び出すような設備が必要だ。その設計製作から



2

想いをカタチにするために、  
機械を自由にコントロールする



3



1



総務の責任者と打ち合わせ。工場内の安全管理、省エネ、さまざまな改善作業についてなど、内容は多岐にわたる



工場内の加工機や設備のメンテナンス、修理なども鎌田さんの仕事



ウチダの強みは、企業の技術力を高めていこうという熱意が従業員みんなのなかにみなぎっていること



メンテナンス、修理まで鎌田さんは自分で行う。「機械をコントロールしてうまく動かせたり、思い通りに部品が完成したときの達成感は最高です」。

鎌田さんは今、電気主任技術者資格を取ろうと勉強中。将来に向けて、さらに難しい技術の習得や、応用分野への挑戦を目指している。

未来のACEへ  
先輩からの  
アドバイス

自動車が好きだという人はいっぱいいると思います。ただ、実際にエンジニアとして仕事をするためには、自身を客観視し、足りない知識・技術を見出し、そこに向けて努力することが重要です。

言われたことだけを行うのではなく、その一歩先を見出すことができる「先見性」を持ってほしいと思います。会社内外問わず、まずたくさんの方に興味・関心を持つことが大切です。

企業情報

株式会社 ウチダ

所在地/本社：神奈川県川崎市  
仙台工場：岩沼市下野郷字中野馬場1-1  
TEL 0223-24-1234 FAX 0223-24-1233  
仙台名取工場：名取市愛島台7-101-56  
TEL 022-384-2930 FAX 022-384-2931  
http://uchida-sendai.co.jp

代表取締役社長/佐々木泰孝  
設立/1955年  
従業員数/101名(2014年10月現在)  
事業内容/プレス加工、冷間鍛造加工、機械加工、組付加工、金型・治具設計製作(自動車部品、産業機械部品、OA機器部品、家電部品)  
企業理念/塑性加工技術の頂点を目指す



ウチダの主要加工製品は、中・小物部品がメインサイズで、エンジン周辺部をはじめとした、様々な用途の機能部品の一部に採用されている

- 1 金型ごとの最適条件に合わせてプレス機の作動を制御する
- 2 プレス機から出てきた部品の数を計算して箱に入れ、自動的にベルトコンベアで運び出す機械。鎌田さんの設計製作
- 3 ウチダが製造している各種自動車部品
- 4 レーザー加工機の前で、担当技術者と打ち合わせ

企業情報

株式会社 宮城化成  
所在地 / 栗原市一迫北沢半金沢 15-4  
TEL 0228-52-3931  
FAX 0228-52-3933  
http://www.miyagi-kasei.co.jp



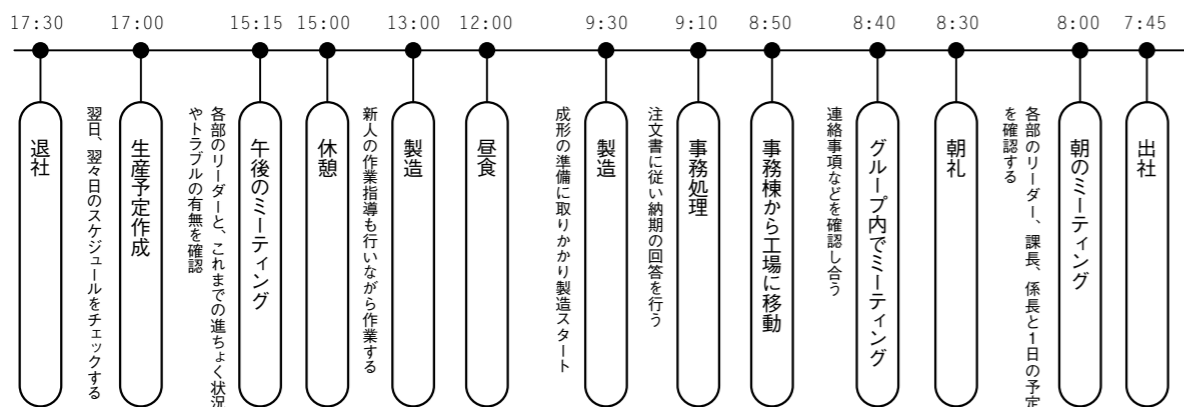
代表取締役社長 / 小山昭彦  
設立 / 1987年(昭和62年)6月  
従業員数 / 40名  
事業内容 / FRP(強化プラスチック)製品の製造・販売、建築資材のレンタル・販売、建築関連工事、工業薬品・各種資材の卸販売  
企業理念 / 私達は、価値ある商品作りとサービスの提供を行い、社会と人々に貢献できる企業を目指します。私達は、より良い商品作りとより良いサービスの提供を常に考えることで、自分達の能力の向上と人格の向上を目指します。

※ FRPとは?

Fiber (繊維) Reinforced (強化された) Plasticsの略で「強化プラスチック」を表す。ガラス繊維などの繊維をプラスチックの中に入れて、強度を向上させた複合素材のこと。断熱性・耐候性・耐熱性・耐薬品性などに優れ、軽量で様々な形状を実現できることから、自動車や鉄道車両の内外装や小型船舶の船体など幅広く利用されている。

験を踏まえて、若手の人材育成にも熱心だ。また「他のグループが忙しい時はスタッフのやりくりも自由に行いますよ」というように、社員同士の交流も活発だ。宮城化成の製品はひとつひとつが手作り。それだけに優れたクオリティが求められる。

製造 門傳 和宏さんの ONE DAY



社屋で小山社長を見つけて直々に提案する門傳さん。上下のへだてがなく、気軽にコミュニケーションが取れるのも大きな魅力だ



グループ内の新人教育も門傳さんの仕事。製品のクオリティを維持するためにも、指導に熱がこもる



関係部署のリーダーが集う朝のミーティング。ベテランが多い中、門傳さんは一番の若手だ

れ、スキル・アップや品質管理にまで、日ごろのコミュニケーションが物を言う。31歳にして3児のパパでもある門傳さんは「若い人と一緒に楽しく働ける」ことを誇

りに思っている。今後は次世代の力を借りながら、FRPよりも更に軽く強度に優れたカーボン繊維を取り入れた新しい素材を開発しようと意欲満々だ。

FRP成形の流れ

①型整備(離型処理)・・・成形型を清掃してから、離型剤を塗る



②ゲルコート塗布・・・成形型に製品の塗料を吹き付ける



③マット積層(ハンドレーアップ成形)・・・型にガラス繊維をセットし、樹脂を浸透させながらガラス繊維を積み重ねていく



④脱型・・・樹脂が固まった後、成形型から製品を取り出す



⑤トリミング・・・製品をカットし、穴空け等を行う

⑥アセンブリ・・・製品に部品を付けたり、組み立てたりする

⑦仕上げ・・・表面の仕上げや不良箇所の修正を行う

⑧検査・梱包・・・製品を検査し、出荷準備

自動車のパーツをカスタマイズする 強く軽いFRP製品の製造を一手に

私達の身の周りには多種多様なプラスチック製品がある。中でも強度を高めた、一般的に「FRP\*」と呼ばれる強化プラスチックは、その特性を活かして様々な分野で取り入れられている。例えば、トラッ

クの運転席の上で見かける流線型の覆いのような「エアデフレクター」は、デザイン性を高めるだけでなく、空気抵抗を低減する役割を果たす。空気抵抗が減ることによって燃費が良くなり、環境保護にもつながるため、多くのトラックがエアデフレクターを装着している。この素材がFRPだ。

「メーカーの純正品にはない、デザイン性が高く、品質の良いモノづくりができるのが我が社の強み」と胸を張る門傳さんは、学校で専門的な教育を受けたわけではない。入社以来、上司の指導のもと、こつこつと技術を磨いてきた。現在6名の部下を束ねる役職に就く門傳さんは、自らの経

手作業が生み出す製品づくりに 円滑なコミュニケーションも不可欠

エアデフレクターを受注・生産しているのが、栗原市に工場を持つ株式会社宮城化成だ。自動車メーカーが自社生産しない部分を中心に、バンパーやキャンピングカーの内装・外装パネルなどのFRP製品の製造・販売を行っている。スタイリッシュなデザインで人気の高い光岡自動車(本社富山市)のボディも同社が大半を手がけている。自動車関連部品の製造グループでリーダーを務めているのが、入社7年目の門傳和宏さんだ。



現場で育まれた技術を存分に活かし 顧客満足度の高いクオリティを生む



1 複数の職種を経験した後「工房での仕事」に憧れ、宮城化成に入社した門傳さん。毎日、自分の手でモノが作れることに誇りを感じている  
2 広々とした工場内は、職人達が匠の技をふるう文字通り「工房」の趣。一人ひとりの技術は、社内の訓練・教育により着実に磨かれていく

仕事 04 CASE 04

複合素材が豊かな未来を創造し 住み良い社会を築き支える

製造 門傳 和宏さん (31歳)  
株式会社 宮城化成 (栗原市)

未来の ACE へ アドバイス

モノづくりが好きな人にとびつたりの仕事です。ただ単に製造するのではなく、より良い製品を作るためには品質管理も疎かにできません。当社の仕事は手作業が中心なので、日々培われる技能と感覚がクオリティの高い製品づくりに役立てられます。自らモチベーションを高めていくことも大切でしょう。辛い作業でも、考え方ひとつで前向きに捉えられるものです。どんなことでも積極的にどんどんトライして行ってほしいですね。その一方で、色々なものに興味を持ってもらうことも必要だと思います。視野を広げていくことにより、仕事は一層楽しく、深まっていくはずですよ。

